

## 第9回北九州市新成長戦略推進懇話会

日時：平成29年8月18日（金）  
10時00分～  
場所：ホテルクラウンパレス小倉  
2階 香梅

事務局（岩見部長）

予定時間となりましたので、ただ今から「第9回北九州市新成長戦略推進懇話会」を開催いたします。なお、松永構成員、金構成員につきましては、本日ご欠席となっております。

本日の司会を務めます、北九州市産業経済局新成長戦略推進部の岩見と申します。よろしくお願いいたします。

まず最初に、配布資料の確認をさせていただきます。資料1「北九州市新成長戦略工程表」、資料2「第9回新成長戦略推進懇話会 工程表主要項目」、資料3「北九州市新成長戦略（平成28年3月改訂）の概要」、A3版でございます。資料4「北九州市新成長戦略（平成28年3月改訂）」の今回でございます。資料5「新成長戦略 雇用創出実績」を配布しております。不足がございましたら、お申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、北九州市市長、北橋よりご挨拶申し上げます。

（北橋市長）

おはようございます。今日は大変お忙しいところ、貴重なお時間を割いていただきまして、第9回の懇話会にご出席、誠にありがとうございます。

この懇話会は、定期的にこの成長戦略の進捗を報告申し上げまして、皆様から助言を頂く、大変重要な機会でございます。今日は、市の各部局にまたがっておりますので、それぞれから幹部職員も同席させていただいております。皆様のご意見をよく拝聴させていただいて、これからの政策の遂行の参考にさせていただきます。

さて、新成長戦略の昨今の状況ですけれども、5年間で新規雇用2万人というゴールを定めまして、この2年間で8,510人の雇用創出ということで、計画を上回るペースで進んでおります。これも、皆様のご意見を踏まえて進めました施策が一定の成果を上げてきているものと受け止めております。ありがとうございます。

昨今は、国家戦略特区、また、インバウンドの風にうまく乗るということで、引き続きこの成長産業を軸とした振興策に注力してまいりますが、成長が期待できる分野としましては、観光サービス産業があります。いろいろなデータで、かつてなく、内外のお客様が北九州にお越しになっているということです。それから、環境エネルギー産業は、従前から本市の強みの1つでありました。また、特区によりまして、日本で初めて介護支援ロボットということで、ロボット産業の発展が期待されております。

中でも環境エネルギー産業ですけれども、日本で初めて洋上風力の発電のファームをつくるということが、着実に前に進んでおりまして、政府のほうも法案の改正など、その条

件整備に大変温かいご支援をいただいております。これは、大変裾野が広い産業ともいわれておりまして、環境アセスメントには大変な時間がかかるわけでありますけれども、着実に目標に向かって進み始めております。

また、私どもは年に1つのテーマを決めまして、7区でそれぞれミニタウンミーティングを行っておりますが、今年のテーマは人手不足ということもありますので、シニアがもっともっと社会で活躍できるようにというテーマで行いました。日銀の北九州支店が、昨今、シニアの働いている率が全国平均に比べて4.4%少なくなっていると。いろいろ見てまいりますと、健康寿命が全国平均よりも2歳ほど短くなっている。塩分の取り過ぎとか、野菜が少ないとか、いろいろあるかもしれません。

また、アルコール依存症の可能性のある方も少し多すぎると率直な指摘を頂いて、私どもも「これではいかん」と。人手不足と、みんなが元気で働けるようにという、これは新成長戦略とは別の部署の話ではあるのですが、総合的に考えまして、ぜひ、この町の発展のためにいろいろなことをこれからも進めていきたいと思っておりますので、どうぞ今日は、忌憚のないご意見を承りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 事務局

続きまして、座長をお願いしております、北九州市立大学の近藤学長特別顧問より、ご挨拶を頂きたいと思っております。近藤座長、どうぞよろしくお願いいたします。

#### (近藤座長)

皆様、おはようございます。確か第8回が3月29日ということで、昨日、議事録を読ませていただきました。今、市長がお話になったように、この5年間、雇用をどのような形で、成長戦略の中で確保していくかというテーマで、その時、私が挨拶をしたのは、シニアの皆さんをどのように参加頂くかということでした。この夏休みに4冊ほど新書を読んだのですが、この国をどうしていくかという場合に、これまでの年齢区分を、変えなければならないだろうと。

そこでは、60歳から75歳を、黄金の15年と捉え、定年後を考えています。その中で、20歳から60歳までの現在の定年制の中で働くと、実労働時間は8万時間くらいあるという試算です。そして、この黄金の15年では、6万時間の自由な時間があると。これをどういうふうに過ごすか、非常に大きな課題だと。北九州に縁のある五木寛之さんの『孤独のすすめ』という本が、7月に出ました。この中でも、やはり書いているのです。文筆家として、高齢者がどういうふうに自立をしていくかという形の中で、いろいろなテーマを考察されている。そういう時代に差し掛かっているのかなと感じます。『未来の年表』という本では、2050年には高齢者人口が40%近くになるという推計の中で、当然考えていくべき課題だろうと。その本の中にはそういう社会をクリアしていく10の処方箋が書かれていますけれども、そのうちの多くの部分をこのプロジェクトの中に、実は北九州市が取り組んでいるという、非常にある意味では先進的な部分――先進的というのは、高齢化、人口減少、それが喫緊の課題だということも含めてですけれども。そういう課題の中で、私たちはそれをどういう形で達成させていくかということで、今日市長のほうからお話があり

ましたように、皆さん方のそれぞれのお立場からご意見を頂ければ、非常にありがたいな  
と思います。

それから、前回もお話ししたのですけれども、私は今日、鹿児島本線で折尾、黒崎、八幡、小倉を  
通ってまいりました。5カ月前と随分変わってきたなと思うのは、やはり折尾地区は非常に若者  
たちが活動している、そういう地域になっている。それから、黒崎の駅の改修工事も進んでき  
ている気がします。そして、皆さん方もご存じのとおり、スペースワールドが、今年で終わる  
という中で非常に今にぎわっています。あの土地をどうするかということは、非常に大きな北  
九州のこれからの課題だろうと思っています。

そして、小倉駅に着きますと、先ほど、市長から話もありましたように、コンコースが5カ  
月前に比べて人通りが体感的に増えてきたなという印象があります。これは、インバウンドの  
話と観光に関係することだと思います。そのような中で、これまで取り組んでいる、この新  
成長戦略が少しずつ実を結ぶ形で進められていると感じます。

5年間の今、3年目でちょうど中間年を迎えていますけれども、その中で40%というのが2  
年間の達成目標ですけれども、それを超えて40数パーセントになっているというお話もあり  
ました。このようなことを踏まえて、では最終的な、いわゆる平成31年までに対して、ど  
ういうふうな形でこれを進めていくのか。また、この5年間というのは1つの区切りであ  
って、平成32年以降はどうするのかということも非常に重要だろうと。

そのような視点からも、皆さん方のご意見を頂ければと思います。少し長くなりました  
けれども、私の挨拶はこのくらいにします。

事務局（岩見部長）

近藤座長、ありがとうございます。議事に入ります前に、今回、アドバイザーに変更  
がございましたので、ご紹介いたします。日本銀行北九州支店の支店長に、新たに緒方様  
がご着任されております。緒方支店長、一言、よろしく願いいたします。

（緒方アドバイザー）

日本銀行の緒方と言います。皆さん、どうもおはようございます。一言ご挨拶をさせて  
いただきたいと思います。

私は6月の頭に着任いたしまして、まだ2カ月ちょっとということで、北九州のことを  
あまり知ったかぶって発言しないほうがいいのかなと思っているのですが、この間、感じ  
たことと、事前に頂いた資料を読ませていただいて、この町のこの成長戦略というのは、  
すごくこの町自体のポテンシャルの高さといいますか、成長余地の大きさみたいなもの  
をあらためて感じております。

そうした中で、先ほど市長のほうからもお話がございましたけれども、一方で課題のよ  
うなものもございまして、高齢者の方の就業の問題とか、人口の問題とかいろいろあるか  
など。そうすると、今後はやはり、構造的な問題に着実に取り組んでいくということが、  
私も重要かと思っております、言うは易しという分野であるのかなと。やはり関係する人  
が協力しながら、答えを見つけていく。あるいは、そういう議論に、多くの人に参加して  
いただくというのが、意義が大きいのではないのかなと思っている次第であります。

そうした中で、私も、これから精いっぱい、いろいろなお話にご協力といえますか、貢献していきたいと思っておりますので、来てまだわずかでございますけれども、何とぞよろしく願いたします。

事務局（岩見部長）

緒方支店長、ありがとうございました。

それでは、議事に従って進行いたします。次第に記載しておりますとおり、本日は新成長戦略工程表の内容について、自由にご意見を頂きたいと思えます。工程表は、新成長戦略のリーディングプロジェクトを実施していく担当部局におきまして、取組内容、目標を規定したものでございます。施策を推進していく上でのご助言を頂けたらと思えます。

なお、これから先の進行は、近藤座長に願いたします。よろしく願いたします。

（近藤座長）

それでは、まず、今ご説明がありましたように、今日の議題に沿って議事を進めていきたいと思えます。「新成長戦略工程表について」ということで、まず、この概要について、事務局のほうからご説明を願したいと思えます。

事務局

それでは、工程表のご説明の前に、昨年度この懇話会で、委員の皆様から頂いたご意見を反映させた事例をご紹介させていただきます。

昨年、生産性の向上や女性活躍について多くのご意見を頂きました。生産年齢人口が減少していく中で、市内企業の実産性向上や新しい働き方の導入による産業の担い手の創出を、力強く進めていくため、今年4月、産業経済局に生産性改革の窓口を開設しております。6月には、日本政策金融公庫と市が連携協定を締結し、市内企業の実産性改革金融支援制度を創設しました。また、中小企業向けロボット活用セミナーの開催や、最新の建設技術で建設現場の実産性向上を目指す「i-Construction」を学ぶ、株式会社トプコン北九州トレーニングセンターの始動など、本市の労働実産性向上に向けた取組が次々にスタートしております。

また、7月には株式会社リクルートホールディングスと市が、女性の就業及び子育てと両立支援を目的とした連携協定を締結しました。子育てや介護等の時間制約がある中でも働ける仕事の創出や、妊娠や出産による離職防止など、本市における女性のさらなる活躍推進に取り組んでいます。

それでは、工程表の主な取組内容についてご説明いたします。資料1「北九州市新成長戦略工程表」に沿ってご説明いたします。戦略の5つの方向性と20のリーディングプロジェクトについて、29年度から4年間のアクションプランを示したものです。もう1つの資料2に、工程表の主要項目についてまとめておりますので、併せてご覧いただければと思えます。

それでは、資料1の3ページをご覧ください。まず、方向性I「地域企業が元気に活動し続ける環境整備」です。

一番上、産業用ロボット導入支援センターによるセミナーの開催、システムインテグレータの育成などにより、産業用ロボットの事業拡大や人材育成に積極的に取り組んでいきます。また、今後の実用化・普及が見込まれるロボット・IoT・AI に関して、地元中小企業への積極的な導入支援を講じることで、生産性向上や競争力の強化を図ります。

上から3つ目、新技術・新製品開発に取り組む中小企業に対する研究開発費の助成を通じて、技術開発力の向上や技術集約型産業への転換を推進します。

4ページをご覧ください。人材確保対策として、市内の中小企業団体が若年者や女性の人材確保を目的として、業界のイメージアップを図る取り組みを支援していきます。

その下、市内の中小製造業者・建設業者の人材確保を支援する取り組みとして、現場で活躍する若者の姿を専用サイト「現場男子」「建設男子」「建設女子」で紹介する取り組みを推進するとともに、トイレ、更衣室等の女性専用設備の設置など、女性が働きやすい職場環境の改善を図る取り組みを支援していきます。

一番下、事業承継の潜在ニーズの掘り起こしから相談、事業承継計画の策定など、事業承継の課題を抱える経営者の支援を行っていきます。

5ページをご覧ください。「地域商業の活性化」では、商店街等が発行するプレミアム金券の発行を継続支援するほか、インバウンドに積極的な店舗を支援・育成する等の固定の支援にも取り組みます。

ページの下半分の「ベンチャー企業等の創業促進」では、インキュベーション施設の管理運営やベンチャースクールの開催、企業予備軍の掘り起こしや人と人とのつながりの創出を通して、日本一起業しやすい風土づくりを推進します。

2ページ飛ばしまして、8ページをご覧ください。中堅中小企業の人材育成や、若年者へのものづくり技術の継承を促進するため、インターンシップや九工大のドクターチャレンジプログラム、北九大グローバル人材育成やMBAフォルダーを活用した取組を行います。また、北九州マイスター、技の達人による技能伝承を推進します。

1ページ飛ばして、10ページをご覧ください。北九州市スタートアップネットワークの会を通じて、学生・女性・企業家など、多様な働き方を志向する人たちを支援します。スタートアップ支援貸付、北九州高専「ものづくりセンター」や西工大デザイン学部による新製品開発支援、「10年後の新しい働き方を考える羅針盤会議」など、新たな動きも始まっております。

11ページをご覧ください。ここからは、方向性Ⅱ「高付加価値ものづくりクラスターの形成」に向けた取り組みです。最初に、EV、FCV、電気バス等の次世代自動車です。

一番上、自動車メーカーへの働きかけを行い、関連産業の集積を目指します。また、水素エネルギー社会を目指し、水素供給拠点の形成に努めます。

上から2つ目、環境対応自動車向け部品メーカーの誘致を行い、新技術開発を支援します。

上から3つ目、北九州学術研究都市の3大学で構成する「自動運転・安全運転支援総合研究センター」や、SBドライブ株式会社との連携による実証走行に向けた取り組みを軸に、関連産業との連携を進め、自動運転技術の開発や実証に取り組む、研究開発機能の集積を図ります。

一番下、国内自動車生産の九州シフトや地元調達率向上に向けて、1次部品メーカーの誘致とパーツネット北九州への加入促進、地元部品メーカーの技術力向上、学研都市の連携大学院による人材育成を図ります。

続きまして、12ページをご覧ください。ロボット産業です。地元企業への産業ロボットの導入では、産業用ロボット導入支援センターによるセミナーの開催、システムインテグレータの育成、導入支援補助金等の活用により、産業用ロボットの市場拡大や人材育成に積極的に取り組んでいきます。また、国家戦略特区の指定を受け、先進的介護、高齢者活躍拠点の形成に向け、介護ロボットの開発支援、実証事業を進めていきます。

2ページ飛ばしまして、15ページ、方向性Ⅲ「国内潜在需要に対応したサービス産業の振興」に向けた取り組みです。集客交流産業です。

一番上、産業観光ツアー造成の働きかけや、ボランティアガイドの活用などに加え、世界遺産をはじめとした産業遺産を巡る周遊観光の促進や工場夜景観賞などの夜型観光の充実により、観光客の滞在時間を増やす取り組みを行います。また、環境関連施設や工場の集積を活かして、大学生ガイドの育成や体験型メニューの拡充を行い、環境修学旅行をはじめとした教育旅行や視察旅行などの誘致を行います。

真ん中です。インバウンド対策では、昨年就航した国際航空定期便や増加する大型クルーズ船などを活用し、外国人観光客のより一層の増加を図るため、海外旅行者へのセールス、観光客の志向やニーズを捉えた効果的なプロモーション、他言語表記などの受入環境の整備などを進めます。また、コト消費の創出を図るため飲食店の支援や、日本文化の体験・紹介なども行っていきます。

一番下、都心集客アクションプランの推進では、今年T J C北九州が3年連続で開催されるとともに、北九州ポップカルチャーフェスティバルは、これまでの実績が評価され、今年3月に文化庁の補助の採択を受け、今後、漫画・アニメをはじめとするメディア芸術の一大イベントとして取り組んでいきます。

16ページをお願いします。小倉地区で実施してきたイノベーションまちづくりを、若松など他地区にも展開するとともに、商店街への出店助成や専門家を活用した経営支援など、地域の集客、交流拠点としての商業の活性化に向けて取り組んでいきます。

1ページ飛ばしまして、18ページをお願いします。一番上と2番目の枠、サービス産業の生産性向上につきましては、事業者相互のネットワークづくりの支援に加え、各分野の専門家等と連携した業務の効率化支援及びSNSの活用セミナー開催などを通じ、市内サービス産業の競争力強化へ取り組みます。

3番目の枠ですが、情報通信産業の集積では、データセンター、情報通信・ICT系企業の新規誘致に向け、営業強化するとともに、コンパクトセンターの人材定着支援、セキュリティ等の条件を備えたオフィスビルの供給に取り組みます。

一番下の情報サービス産業の創出では、「北九州 e-PORT 構想 2.0」に基づき、その担い手となる高度ICT人材育成、スタートアップの支援及び地域課題解決型新ビジネスの創出に取り組めます。

19ページをお願いします。ここからは、方向性Ⅳ「グローバル需要を取り込む海外ビジネス拠点の形成」に向けた取り組みです。

1つ目の枠ですが、アジア低炭素化センターによる廃棄物や上下水道など、都市インフラビジネスでは、アジア諸都市とのネットワークや国等の資金を活用しながら、各国のニーズに応じた各種プロジェクトの支援や、北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸とした、地元企業の技術製品の売り込みなどを行います。

1 ページ飛ばして、21 ページをお願いします。北九州初ブランドの海外進出の支援です。

製造業や飲食、小売、介護、サービス業の海外ビジネス支援では、本市、JETRO、貿易協会の3機関で設置している「KTI センター」を活用した、製造業を中心としたミッション派遣やビジネスマッチング、海外展開を目指す地元中小企業への国際ビジネス人材活用支援。商業・サービス業では、欧米やアジア諸国でのテストマーケティングや、日本一の出店による北九州ブランドの支援。市内介護事業者を対象とした勉強会の開催などを行います。

22 ページをお願いします。ここからは、方向性V「地域エネルギー拠点の形成」に向けた取り組みです。「省エネルギー（ネガワット）の推進」では、エネルギーマネジメントの事業化とともに、市役所や市内中小企業の省エネルギー化を進め、エネルギーに強い企業体質への転換を図り、競争力を高めます。また、エネルギーマネジメントなどの新しいエネルギービジネスの創出を目指します。

1 ページ飛ばして、24 ページをお願いいたします。北九州市は、太陽光発電の導入量で全国第3位、洋上風力発電は政令市第1位と、全国有数の拠点となっています。引き続き、洋上風力発電やバイオマス発電の事業化を進め、さらなる導入拡大を図っていきます。特に、洋上風力発電については、環境省のモデル事業に選定されていることもあり、関連産業の総合拠点化に向けて取り組んでいきます。

25 ページをお願いします。「安定・安価で賢いエネルギー網の構築」では、先ほど説明した省エネ、つまり、エネルギーを使う側と、再エネなどのエネルギーをつくる側をうまく組み合わせて、トータルとしてのエネルギー拠点を目指します。また、国の機関とも協力をして、熱などの企業間の相互融通の可能性を引き続き検討していきます。

1 ページ飛ばして、27 ページをお願いします。5つの方向性に含まれないその他の雇用創出の取り組みについて、ご説明します。

若者の就職支援では、若者はプラザを拠点として、相談からマッチングまで一体的支援を実施、職業間の醸成に向けた「北九州ゆめみらいワーク」の開催、合同会社説明会の福岡市での開催、地元企業でのインターンシップを、首都圏の大学まで拡充による地元企業の情報や魅力の発信、U・I ターン就職の常設相談窓口の設置による相談機能の強化などにより、地元就職を促進してまいります。

女性の活躍では、「ウーマンワークカフェ北九州」を通じた、女性の就業・創業のワンストップ支援を行っていきます。また、子育て世代が安心して働くことができるよう、民間保育所の新規開設や定員増、放課後児童クラブの利用児童数増への対応を進めていきます。

28 ページをお願いします。中高年齢者や障害者の就業促進では、特区の認定を受け、全国初となる「シニア・ハローワーク戸畑」を開設し、国と連携した一体的な事業運営、セカンドキャリア支援に関する取り組みを開始するなどにより、就業促進を行っていきます。

医療・介護・福祉、子育て支援分野では、特別養護老人ホームの新設や福祉人材バンクの運営、潜在的有資格者への就労支援などにより雇用創出を図ります。

工程表の取組内容についての説明は以上です。

次に、資料5をご覧ください。平成28年度雇用創出実績についてご説明します。平成28年度にリーディングプロジェクトの取り組みによって創出された新規雇用について、方向性ごとに実績を取りまとめたものです。

平成28年度合計で5,132人、方向性ごとの実績はご覧のとおりです。平成27年度から5年間で2万人という目標に対して、2年間で8,510人の雇用を創出し、計画を上回るペースに持っていくことができました。なお、新規雇用創出の目標とは別に、従前からある休職と求人者のマッチングにもきめ細かく取り組んでおり、3,362人が雇用に結び付いております。

以上で、ご説明を終わります。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。ただ今、工程表の資料1、資料2、そして最後に資料5ということでご説明いただきました。では、構成員、それからアドバイザーの皆さん方にご意見を頂きたいと思えます。メールでもご案内いたしましたように、まず今の説明について、あるいはそれぞれの立場からということでも3分程度でお一方ずつご意見を頂ければと思えます。岩井構成員から、よろしく願いいたします。

(岩井構成員)

3分で、何を言えばよろしいのですか。

(近藤座長)

まず、今の説明についてご自分のお立場のところでも興味、あるいはご質問等があれば、そこを言うだけでいい。後でまた、自由意見という形でいろいろなご意見を頂きたいと思えますので、まず感じたところを発言頂ければと思えます。

(岩井構成員)

新日鉄住金の岩井です。よろしく願いいたします。3分ということ、言いたいことは沢山ありますが、全般的には、さすが北九州市だなということ、かなり総花的に、考えられる施策は全部織り込まれているなと思えます。後で課題も申し上げますが、そういう意味では、ここで整理していただいた多くの取り組み施策については、具体的目標が必ず紐ついており、工程表という形にさせていただいて、進捗が見えるようになっているというのは、基本的にはよろしいのかなと思えます。

これは後の時間でお話しますが、これらの多くの施策をどうやって有機的に関連させるのかということが、読めば読む程、分からなくなるというのが正直な感想です。ただ、この戦略表はずっと長期的に取り組んでおられるので、とりあえずいろいろやってみようというスタイルであれば大変努力して頂いていると思えます。以上です。



(近藤座長)

ありがとうございます。それでは、北川構成員のほうからお願いします。

(北川構成員)

いつもお世話になっております。株式会社フムフムの北川です。今の説明をお伺いして、3分くらいでどうまとめたらいいのかと思ったのですが、全般的に取り組みがすごく速いというのは感じています。目標がしっかりこの行程表を読んでも付いているというのが分かりやすく、私たちが見ても非常に分かりやすいなと思うのですが、細かくなっていくと、ラウンドとして、面として捉えるのか、一つの物事を点として捉えるのかで、大きく取り組み方が変わってくるなということをすごく感じているのと、逆にこの目標が、すごくいいことに取り組んでいるのに、一般的になったら知られているのかと言ったら、知られていないことがとても多いのではないかなという、この告知というのをどうしていくといいのかというのを、先ほど説明を聞きながら考えていたところです。また後で、自由意見で述べさせていただけたらいいなと思っております。よろしくお願いします。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。では、籠田構成員からよろしくお願いします。

(籠田構成員)

籠田です。よろしくお願いします。私も全般的に新成長戦略のシナリオは、総合評価的に素晴らしい方向に向かっていると感じております。中でも北橋市長が、暴力とかダークな、グレーな部分をクリーンにして下さっているのは、本当に私たちは感謝しています。同時に、その先の部分を今回、その新成長戦略できらきらしていただきたいというような希望で、実は聞いていました。

3分なのであまり言えない……。いろいろ思っていることはありますが、北九州市ならではのものを、もっと今度、総合的にというよりも、北九州市ならではの、どこを尖らせていくのかというところは、やはり戦略としてすごく重要ではないかなということを正直思っていて、いろいろ考えていました。後ほどお願いします。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。私が3分と限定してしまったので、ずいぶんご発言が……。逆に言えば後でたくさんのご発言を頂けるということで、ご了承いただければと思います。では、齊藤構成員からよろしくお願いします。

(齊藤構成員)

株式会社SAKUの齊藤と申します。よろしくお願いします。この新成長戦略工程表は、方向性のIからVまで柱が組んでありますが、いろいろご意見があるかなと思う中で、私もやはり行政経営という視点に立てば、これは民間とは違う視点がどうしても求められて

くるのかなと。つまり、総花的なと一方では思うけれども、それは行政経営という、背負っている使命感と言いますか、そういったものが一方であるがゆえに、こういった政策展開にならざるを得ないところがあるのではないかなとは感じております。

その中でめりはりというのは出てくるかとは思いますが、やはりこのテーマが「新成長」と名前がついているとおりに、非常に今を反映するリアリティのある計画になっていると実感しているところです。特に、インバウンド対策ですとか、都市集客アクションプランというところで都心部の取組が、そして海外からのお客様の誘致戦略というところが、非常にスピーディに反映されてきているのではないかなと思っています。また、具体的には後ほどコメントさせていただきます。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。それでは原田構成員、よろしくお願いします。

(原田構成員)

七尾製菓の原田と申します。工程表を見ましても、本当に北九州は頑張っているなというところを拝見させていただいているのですけれども、どうしてもやはり、私が思うのは、自動車産業、鉄に特化している、それに本当に重点を置いていらっしゃるのだな、中小企業は食品も含めて、別の意味での製造業に関しては、いろいろご提案はあるのだけれども、まだまだ中身が整っていない。そういう感じを受けます。これからインバウンドで、北九州市をどういうふうに関内のお客様から認めていただくと思うならば、やはり鉄や自動車以外の製造業にもっと力を入れていただければと感じました。

(近藤座長)

ありがとうございました。福田構成員、よろしくお願いします。

(福田構成員)

株式会社陽和の福田と申します。私は皆さんと少し意見が違いまして、実際に今、あらためて、こういうふうにかちんと整理していただいた資料を見ますと、幾つかのプロジェクトのある部分はかすって、ある部分は深く関わらせていただいています。実際にいろいろな恩恵を受けています。行政と我々市民、民間は全然違いますので、行政がここまでやってくれて、先ほどめりはりという言葉もありましたけれども、めりはりは自然に付いてくるのかなと。受け手があとは頑張って、もっと支援してほしいような体質に頑張れば自ずからめりはりが付いてくるので、逆にここまでやっていただいて、もう十分かなという気はします。後は我々の頑張り次第かなという感想を持っています。また、詳しい話は後ほど、よろしくお願いします。

(近藤座長)

ありがとうございました。緒方さん、よろしくお願いします。

(緒方アドバイザー)

最初の挨拶でも申し上げましたけれども、全般的に項目が網羅されていて、今回のご説明も踏まえて、それに一つ一つ誠実に取り組んでいらっしゃるって、成果が上がっていらっしゃるというのが全体的な印象でございます。そうした中で、これは成長戦略ということでございます、そうすると一つ意識しなければいけないのは、やはり地方創生という流れにあって、ある意味、競争にさらされているという部分があるかと思えます。

そうした中で、一瞬、矛盾めいて聞こえるかもしれませんが、他の地域に対して、競争力を持たないと、個々の、一つ一つの成果も、その達成度合いは変わってくるかなど。矛盾めいていると申し上げましたのは、もう一つは、そうは言っても、単独で市で取り組んでいっても、やはりいろいろな戦略上の限界がある面もあると思えますので、ある意味、他地域との協力関係みたいなことも意識するというのが、一つの方向としてあるのかなど。全体感ではございますけれども、最初のコメントとしては、そういったことを申し上げたいと思えます。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。最初は3分程度というお話をしましたけれども、これからフリートークという形にしたいと思えます。その前に、座長のほうも話していいということなので、私も3分間いただきたいと思えます。

まず今、資料のご説明の中で、詳しいところは後ほどにしますけれども、少しお聞きしたいのは、資料5についてです。それぞれ方向性のⅣまで、それから雇用創出についてということで、数値的な、いわゆる定量的な部分での目標がどれほど実際に達成されているかという点です。

先ほど市長、それから事務局からの説明にもあったように、2年間で8,510名という雇用を生み出している。これは42~43%になるのだらうと思えます。そういう意味で、進捗がある。ただ、方向性のⅠからⅤと雇用創出に向けての中身を見ていくと、進捗に少しばらつきがあると思えます。とりわけⅠ、Ⅱに関してかなり50%を超えて、Ⅱの方向性のところは90%を超えて、ほぼ達成するような状況です。2年間でやってしまっている。ただ、逆に言いますと、方向性のⅤの地域エネルギー拠点の形成のところというのは、まだ十数パーセントというところがある。すなわち、このばらつき感をどういうふうに考えているか伺いたい。

逆に、これは予定で実数を上げているわけですから、成長する部分に関してはもう少し特化してもいいのではないかと。これは先ほど福田構成員、あるいは籠田さんのほうからお話があったトンガリの部分になるという可能性も含めて、もちろんベースとして必要なものもあるのだらうということも考えながら、この施策についての全体的、あるいは部分的な見方を教えていただければありがたいと思えます。いかがでしょうか、どなたか。

(梅本副市長)

今の資料5で、今、近藤座長がおっしゃたように方向性Ⅴ「地域エネルギー拠点の形成」について、方向性Ⅰ・Ⅱに比べると伸び率といいましょうか、達成度が低いのではないかと。

ということは、確かにそうだと思います。

これは、先ほど市長も申し上げたように、洋上風力の達成、いわゆる進捗状況に応じて増えてくる部分でありまして、響灘の洋上2,500億円から2,600億円の民間投資がされて、洋上風力の風車を建てているということになります。併せて、私どもが事業者さんに要求しているのは、その組み立て工場とか、そういうものを響灘に立地してほしいということで、今、優先交渉事業者がそれを達成すべく、いわゆる全体の資金繰りすればいいのかということを検討している最中です。

加えて、これから先、環境アセスメントが始まります。しばらく時間がかかると思いますが、ただ、最終的にはあそこに数十基の洋上風力の風車が建って、響灘にそれを組み立てる工場が立地するというので、その関係で雇用は当然、増えてくると思いますので、今はまだ準備段階ということで、少し数字が出ていないという状況だと理解していただければと思います。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。今の段階で私は、あまり数字は問題にしていないのです。どういうことかと言えば、5年間の目標というのは1年間で全てを達成するという方向性のものがあってもいいだろうと。最後の年に、ここは追いつけるのだというものもある。そういう視点を皆さん方にも持ってほしいと思います。最終的な目標に同じように進むという形ではなくて、それがめりはりみたいの部分にもなるだろうと思います。その中で予定というのは、あくまでも最初の机上といいますか、机の上で出たものを集めるわけですから。進捗の中ではそれに対して柔軟にやっていくという意識を持っていただければありがたいと思います。数字の細かいことではなくて、その運営や中身のことについてです。どうもありがとうございます。

それでは、ここからフリートークという形で、プロジェクトが20個、そして3つの雇用、その中の施策も複数個あります。今日も構成員の皆さん方、それぞれ自分のお立場からご発言いただければと思います。どなたでも結構です。これからフリーですけれども、優先順位のもとにご質問なり、あるいはご意見を頂ければありがたいと思います。よろしければ、挙手を頂ければと思います。それでは、皆さん方よろしくお願ひします。

(岩井構成員)

本来この資料をまとめる前に言うべき話をあえて申し上げます。あれは入っているかなと思ったら全部入っていて、考えられる施策は全部並んでいて、そういう意味では非常にきめ細かいことだと思います。但し、先ほど緒方アドバイザーがおっしゃたように、例えば、うちの会社が中長期計画を策定するときに何を考えるかということ、成長とは何だろうということから入るのです。成長と言ったら、売上高の規模の拡大でしょうか、収益率の拡大でしょうか、もしくは、高付加価値化に移行するか、まずその狙いから始めるわけです。

一方で、競争力は必ずセットでないと駄目です。でも、競争力と言ってもいろいろあって、「コスト競争力」ということであれば、技術指標改善や合理化などを考えることになり

ますけれども、「品質の競争力」や「非価格競争力」を向上して、収益を拡大する方向性もあるのです。その中で一番難しいのは、何を順番にやっていくか、何に経営資源を投入するかということが、一番悩むところになってくると思います。そういう意味では、行政は、企業と違う側面は多々あり、市民の皆さんを納得させるためにいろんな施策を並べる必要はあると思うのですが、それでも施策の優先順位や重点化は必要だと思うのです。

これは前回も申し上げたのですが、最終的にどういう市にしたいのか、どういう産業構造、どういう労働構造、市民構造をつかっていきたいのか。そういう最終のターゲットが何か描かれているのかということ、私はいつも思うのです。個別の施策を見ていると、全部正しい。一見正しいのだけれども、もしかしたら施策がバッティングしていたり、この中で何か矛盾があるのではないかと。

要するに、矛盾といっているのは、対立概念があるのではないかとと思うのです。例えば、雇用創出ばかり全部書いていますけれども、ご案内のとおり足元では労働人口が足りないとか、そういう問題が顕在化し、施策が全部うまく行ったとしても、必ず人手不足で限界がでてくるみたいなことが、多分起こるのだらうなど。そうしたら、何から順番に始めていったらいいのか。今、項目は沢山書かれているので、尖った優先順位で、どういうロジックで、例えば労働人口をまず増やすのだということから始めていくとか、戦略の組み立てが、よく見えないと思っております。

時代や企業、パラダイムがどんどん変化していく中で、本来、主役はやはりプレイヤー。プレイヤーというのは市民であったり企業であったりということかなと思うので、行政の役割は、その背中を押すとか、支援するとか、基盤を整えるということだと思うのです。例えば大型船が入るように港湾の整備をするみたいな話は、行政でないと、多分できないと思うのです。そういう基盤投資で支えていくというのが行政の役割なので、どういう順番で、何に重点化して、もっと言えば、税金をどこに投入するのですかということを見せて欲しいというのが、一番最初に総花的であるといった意味あいです。以上です。

(近藤座長)

ありがとうございます。今、20のリーディング、それから施策がその中にぶら下がってわけですけれども、そういう横並びという形ではなくて、全体的な中での優先順位とか、全体を通した、もちろんこの方向性、雇用創出という枠組みは書いていますけれども、例えば離職であったり、そういう部分も含めた全体的なグラウンドの中の部分だという視点も必要ではないかというご意見でした。ありがとうございます。

他の委員の皆さん方、いかがでしょうか。

(籠田構成員)

私のほうからは、まず人についてなのですけれども、雇用創出という数字はすごくいいのですけれども、業績というか、辞めている人と増えている人とどれくらい加味して、本当に増えているのか、どこからその人たちは創出されているのかというのが少し謎です。そこは、今、明らかにということではないのですけれども。

人について、私が考えていることなのですけれども、私は昭和40年生まれですが、私

の年代というのは、続く人たちは人口増であり不安感というのではないのですけれども、実はわが社員の30代から20代にかけては、すごく不安感を持たれています。なので、本当に私たちの世代が、20年若い人たちに対して何ができるのかというのを、すごく私は考えなければいけないと思っています。特に、私の息子が今、高校3年生ですけれども、バスやモノレールの中で誰がうるさいかと言ったら、「おばちゃんたちが一番うるさいんよ」と言うのです。老害というか、高齢者の害が若者はすごく嫌だと言う。それは関係ない話かもしれないのですけれども、そういうふうに高齢者に対しての何か、言葉はあれなのですが、教育というか、もっと目覚めさせる、もっと親切になる、もっと思いやりになるような動きは、すごくこれから大切になるのかなと私は思っています。

特に、高齢者が足りないものとして、また北九州市が絶対に不足していると思うことが2つ。英語、外国語とITです。IT化に関しては、まだこの新成長戦略では私は全然足りない。ITリテラシーはここにはあるのか、このエリアにはあるのかと思っています。もうITがなかったらこの町はなくなってしまうと思っています。なので、この2つ、英語とIT化に関しては、市を挙げてどこでもWi-Fiが使えるし、私も今、出張が多いので会社は常に、いろいろなプログラムを使ってどこでも喋れるように、現場をどこでも確認できるようにやっています。実際、行政でもいろいろIT化が進んでいる事例があると思いますので、人に英語とITをセットさせられるような新成長戦略を期待したいと思っています。

もう1つ、人というところで、行政の方はこういうのをつくるのはすごく上手です。民間で、我々中小企業でこのような書類をつくらせるとなったら、並大抵の尽力というか、生産性がものすごく悪いのです。福田構成員のところは得意な方がいらっしゃると思うのですけれども、中小企業がこうやって行政とやっていくということがものすごく大変です。

中小企業とベンチャーと少し似ているところがあるのですけれども、ベンチャーになりきれない中小企業はどういうことかという、こういう書類がつかれないのです。私は、書類はもっと少なくしてもらいたい。必要な書類は、必要な項目は限られていると思います。もっと言うならば、市が上手であればそれをきちんと聞き出して、市が書類をつくれればいいと思います。抜きん出た、少し変わった人間というのは感性の人間なので、無理なことをやるからイノベーターが起きるのであって、無理というのは理屈がない人間なので、その行政の力をもっと民間に放出してもらいたいのです。

というふうに私は思っています。ある官僚の方々と話すと、官僚の方も2種類というか、少ないと思うのですけれども、なんとかフライデーのあとは国民の、国民というか私たちの中に、居酒屋に行ってそこからすごく情報収集すると。北九州市の行政の方もそういう方がいらっしゃるとは思うのですけれども、市民からすると、行政の職員さんがすごく遠いのです。もっと居酒屋で市の職員と民間の社員さん、若手、大学生がががが普通に、フランクに話せるような行政職員の皆さんに期待しています。

もう1個、1つ目が人、2つ目が景観です。この北九州市の景観は、私は素晴らしいと思っています。どこを切り取っても、もちろん山も素晴らしいし、川もあるし、海もあるという所なのですけれども、私は街なかから見る景観がすごくきれいだ。これは前市長の末吉市長が、紫川から土木、素晴らしい開発をしてくださっていると思うのです。今回

の水害の件も市のマネジメント力が素晴らしくて、この紫川も安心な市民の1人でした。この景観に関して、さらなる価値を上げていくというところを、もっと戦略的にPRしてもらいたい。

デンマークの風の学校というのを市の方はご存じですか。デンマークは資源が少ないので、風の学校というのをつくって、風力発電を国を挙げてエネルギーをしています。風の学校というのはネーミングがいいので、地方創生でいろいろ宿泊施設をつくっていますけれども、北九州市も洋上風力ファームというのはすごい目玉になると思いますので、景観も含めてそこを研修センターやいろいろな人たちが来る、ITや、今、工学系の学生はすごく魅力を感じています。

一方、私は小倉駅の北口を降りて右側、市長も先ほどすごくダークでグレーなところの一掃は素晴らしいと思いつつも、あの何とも言えない情緒たるものが、駅の降りてすぐ右側と言いますか、なかなか私たちが入れないようなところがなくなりました。何か分からない結界があったような、何かおどろおどろしいみたいところがなくなったのですけれども、あれは一方で、消えゆく北九州市の情緒たる何かだと思います。今回、且過市場の件もいろいろ、多分、行政の方がして下さっていると思うのですけれども、あれは私はデザイナーですし建築家ですけれども、あれは絶対につくれない。あの人とあの風景は絶対につくれないというところで、何とか、それも1つの価値にしてもらいたいと思います。

(近藤座長)

どうもありがとうございます。一言でまとめることができませんが、まず、ITと英語というキーワードがあったと思います。これは人材育成、教育と言いますか、それをこれまでの小中高大という制度に対してというよりも、むしろそこから卒業した生涯にわたっての教育、高齢者までも含めた意味として。

先ほど私も少しご紹介しましたけれども、五木寛之の本ですが、実際には「高齢者の自立のすすめ」をテーマにしたものです。そういう意味では、それぞれの立場で学ぶものは、学校を出たからおしまいではない。その後の社会教育、社会人教育をどのように考えるか。これは大学にとっても非常に大きな課題だと思いますので、私も重く受け止めたいと思います。

それから、行政や民間との距離という話があったと思います。そういう中で、もう少しそれぞれの良さを融合すると、 $1 + 1$ が $2 + \alpha$ になるのではないかとのご指摘があったと思います。

これまでの付加価値としての景観と言いますか、ただ単に、先ほど私は地域エネルギーの拠点という形で、今、それはエネルギーという本来的な目的はそこなのですが、それを観光とか、デンマークの話のように利用できるのだと。そうすると、インバウンドとか、そういう方向性の中で1つの分野に限られたものが、旅行と言いますか、そういう中で重なって人が集まってくるという視点も含めてのご発言があったのではないかと思います。非常に北九州市を愛されている籠田構成員のご発言だと思います。

ITとかは、かなり進んでいるのではないかと感じていましたが、その辺の距離感、感じ方が違うのだと思います。それも、先ほどから、どのように告知していくか、広報し

ていくかということに、少しギャップあるのかなと。もっと知らせる、実態に即して民間と行政の距離感が近くなると、その辺が解決できる。あるいは、お互いに理解がしやすくなるという側面もあるのかなと聞いておりました。

他にございますか。では、福田構成員からお願いします。

(福田構成員)

私のほうからも、籠田構成員がおっしゃってくれましたので、人について、私なりに意見を述べさせていただきます。

弊社は、一番若い子が18歳、一番年寄りには81歳です。これだけの年齢層の人間が約100人、一つの箱の中で仕事をしております。加えまして、障がい者の方も2名おりますし、今年の春からベトナムの方も2名入っています。本当にいろいろな方がごっちゃになって、一つの中で仕事をしているわけです。当然、これだけ世代のギャップがあったり、考え方の違いがありますと、衝突が起きる……先ほど、おばちゃんの声がうるさいという声がありましたけれども、多分皆さん、いろいろなことを思っているのでしょうけれども、何とかきちんと回っています。

私がよく感じるのですけれども、女性の方が多いのでちょっと失礼かもしれませんが、例えば、子育て終わった方がパートさんとか派遣さんで弊社に来るわけです。ああ、ヤボった人が来たなと最初思うのですけれども、3カ月や半年働いていると、非常にきれいになるのです。ご高齢の方もそうです。弊社では「シルバーさん」と呼んでいるのですけれども、60歳で他の会社で定年になった方を、我々は再雇用しています。弊社の仕事は、たまたま製品が軽いので、力仕事は要らないのです。足腰が立って、きちんと技術があればできる。何とも、やぼったいおじいちゃんが来たなと思うのですけれども、半年もしたら、シャキッとしています。

なぜかなと思うと、やはり人と関わることなのですね。何だかんだ言っても、いろいろな世代の人間と関わって、一つの役割をもらって、仕事をするのでシャキッとしてくるのです。やはり、世間性が出てくるというか、高齢の方に失礼かもしれませんが、社会人として、人としてきちんとしかるべき態度をあらためて取るようになるのではないかなと感じています。これは、外国の方もそうですし、障がい者の方もそうです。最初はおぼつかないのですけれども、やはり半年程経過していく中で、それなりにきちんと社会人として一人前の行動を取るようになってきます。

何が言いたいかと言いますと、確か、前回も一言述べたかもしれないのですけれども、どうしてもこういう戦略を立てると、縦軸、縦割りになってしまいます。横軸のつながりがないのです。弊社も、私自身もそうですけれども、IoTとかロボットとか、一時期の戦略、それぞれに関わらせていただいているのですけれども、ああ、ここは抜けているな、ここともつながりたいなと思っても、なかなかつながらないケースがよく出てくるのです。

先ほどの人との関わりではないのですけれども、「ものづくりのまち北九州」という言葉をよく聞くのですが、その割には、例えば観光とは全然関わっていないな、サービス業と関わっていないな。ものづくりはものづくりなのかなという印象を、やはり受けてしまうのです。



異業種の交流が、全国いろいろな所で交流していますが、例えば、東京のある会社は、JTB と所と組んで、修学旅行生とか他の会社の人間を工場見学という形で呼び込んで回しています。そこで、学生ともネットワークができる。異業種のネットワークができる。そこから新しいアイデアが出て、仕事が広まる。大阪のある友人の会社は、「3 S・5 S」というキーワードで工場見学をさせています。1人1万円だそうです。外国からの観光とも引けを取らないそうです。日本のものづくりが見たい、「3 S・5 S」できちっとした現場が見てみたい。そういう形の見学であり、遺産観光ではないのです。生きた現場を見せて、実際に交流を図っている。またこれが、ネットワークが広がって新しい仕事生まれる。こういう発想が出ているのです。これは製造業でしょうか。サービス業でもあるのです。観光でもあります。だから、そういう垣根を越えて、人と関わっている。

私が素晴らしいなと思ったのは、社長がガイドをするのではなくて、新入社員とか若い子たちにさせているらしいのです。人と関わるのが苦手、ものづくりが好きで製造業に入ってきた人間が、頑張って知らない人間に説明しなければいけない。ものすごく勉強して、すごく成長するそうです。いろいろな意味での相乗効果があるのです。そして、仕事も広がる。

こういうことが、北九州でもできないかなと思います。一つの例ですみません。横軸の話ですけども、単にものづくり、観光サービスで割り切るのではなくて、そういう形で何か横軸的にできるプロジェクトがあると、そこから発生するいろいろな効果、特に人の成長、雇用を含めてそういうものに最終的につながってきて、ひいては町の発展につながるのではないかと思いますので、そういう視点でも、もう少し、あと3年、4年、5年目ですか。一ひねり、二ひねりしていただくと非常にありがたいかなと、そういうふうな印象を持っています。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。福田構成員からは、From 18 to 81、幅広い世代の中から見えてくるものということで、それは実際に環境というものが整うと人が変わる。環境が人をつくるというお話から始まって、そして、いろいろな企業、縦割りの区分と言いますか、そういうものを乗り越えるということのほうが、新しいものが生まれるという、先ほど、皆さん方のご発言にあるようなところがやはり必要になってくるというお話を頂きました。ネットワークというのが、一つのキーワードだったと思います。どうもありがとうございました。

他に、何かございませんでしょうか。原田構成員、どうぞ。

(原田構成員)

福田構成員の今の話を伺って、うちも18歳から、81歳ではないのですけれども、一応、73歳というふうな区切りを付けておりましたが、座長がおっしゃったみたいに、これを75歳に延ばそうかなと思っておるところでございますし、障がい者の人も9人おります。あと、海外の方も数名おります。要するに、今、おっしゃったみたいに、お仕事をするとシヤキッとするというのももちろんですけども、中に相談役とかアドバイザーとか、そう

いう方が必ず必要だと思います。

うちは、おかげさまで、社員の中でそういう役割をする人もおりますし、シルバー人材センターからもお願いしているので、そこではセンターの中で相談をしてくださる方もいらっしゃるのですが、そういうふうには、やはり雇用を上から下までというふうになってくると、社内でのコミュニケーションをどういうふうにするにすればいいのかというところの人材も育成しないといけないので、できれば、福田構成員の所のように81歳までの職種の方など、いろいろな人材がいらっしゃる方がどういうふうにしてうまくまとめていらっしゃるのかなという話も、どこかで共有していただければ面白いのではないかと思います。

それと、うちの家業ですけれども、食品会社ですから、今、このプロジェクトの中で見ると、中小企業の食品の製造に関することというふうなことが、一番、目に飛び込んでくるものでございます。実際、北九州もいろいろな所で、小さな企業さんで商品を作りましたということが新聞に載っているのを、最近よく拝見することがありますので、頑張っているなと思うのですけれども、それがいつまで、長く1年も2年も続くような商品になっているのか。それを追跡してもらいたいと思います。

実際、食品になりますと、食品の分析等、表示、いろいろな難しい問題がたくさんございます。やはり、そこを中小企業の小さな企業さんもそうですし、うちもそういう特許の面とか商品の製品分析とか、そういうところでなかなか費用もかかりますし、北九州というよりも県の工業技術センターのほうだと、それをいろいろ助言も頂ける。工業技術センターは久留米ですか、そういう所まで行かないといけないので、北九州でそういう窓口があればいいなと思います。

インバウンドというふうなことがありますし、うちもお菓子作りをやっておりますので、これから北九州も頑張っていただければと思いますし、スペースワールドの跡地はどうなるのかというのを、すごく思うところでございます。スペースワールドは本当に、セメントの町というような感じがするのです。だから、木でもばーっとたくさん植えて自然豊かな地域にしてもらって、そうしながらも海外のお客さんをお呼びして来られるような場所にしていただけたら、よろしいのではないだろうかと感じております。海外のお客さんが来て、北九州の特産品とかいろいろなものを、どこかで見たり買えたりするような所が、免税品店以外に、どこか場所が……北九州空港では少し遠いと思うので、北九州空港を使ったお客さんをどうやって北九州市内のほうに呼び込んでもらえるのかなというのが、これからの問題ではないだろうかと思っております。

昨日でしたか、2～3日前だったか、北九州空港に用事があって行ったのですけれども、海外から来た方は、個人で来られている方が多いように思いました。昔は、ツアーでどっど来て、バスでどっどどこかに行ってしまうという形ではなくて、個人旅行が増えてきた。だから、ニーズがどんどん変わっているので、北九州のインバウンド対策に対する方向性もどんどん変えていかないと、従来どおりの考えで、バスが来て、どこかにどっど行って、観光地に降ろしてというふうなことではなくて、北九州市内でどういうふうにしてどまっただけか、そういうふうなことを考えていただければと思います。

もう1つですけれども、北九州ブランドを海外に出すというところで、うちも頑張っておりますし、KTIセンターが本当によく機能していただいて、JETROさんとのコミュニケー

ションもすごくいいのですけれども、中国に関してもいろいろな食品の添加物等の変更というのが、やはり JETRO さんのサイトまで飛ばないと分かりづらいところがあるので、できれば、それを北九州市のホームページなりをぱっと見れば、簡単などころで分かるようにしていただければありがたいなど。

今、EU に関しては鳥インフルエンザの件で、一切、卵の商品が行かないようになりしました。だから、うちなどはお菓子のメーカーですから、EU のほうに輸出するのがとても難しくなりましたので、次はアメリカ……もちろん、東南アジアも、おかげさまで本当によくしていただいて、商品の道筋もできたのですけれども、海を越えてアメリカのほうにも進出していきたいと思っていますので、そういうふうなところのアドバイス等もよろしくお願いいたします。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。最初は福田構成員の話を受けて、75 歳まで考えるということで、まさにこの地域のリーディング・フロントランナーだと思いました。

いろいろなお話がございましたけれども、やはり、これまで行政に関してもそうですが、縦割りのところでは、それを横串という福田構成員のお話の中で、そこに対しては、両方が見える人が必要だろうと。そういう人材の育成も必要だろうということで、アドバイザープラス、ある意味ではコーディネーターといいますか、そういう意味での人材の必要性ということのご発言があったと思います。

個人的で申し訳ないのですけれども、前回第 8 回の時は学長という肩書で、この座長を引き受けておりました。そして、4 月からは学長任期が終わりましたので、顧問という、相談役みたいなもの、アドバイザーです。そういう意味での仕事の重要性というのが人材を育てる上では、大きな課題だろうと思っています。横串をつくる上では、そういう人材を育成するということが重要になってくるというご発言があったと思います。

原田構成員独自の、いわゆるお菓子の会社としての、これまで JETRO と市のほうのサポートと、それからさらに、それを広めるための幾つかのアイデアをご発言いただいたと思いますので、それはできるものから、ぜひ、行政のほうでも取り扱っていただければと思います。

それから最初に、原田構成員のほうから、どうしても大手企業を中心にした取り組みが目につきすぎることがあったと思いますけれども、一つずつ、そういうことも含めて、それが後 2 年間の中で改善が実感できるような形で進められるのだろうと考えております。

スペースワールドの跡地利用というのは、今まさに、この地域の喫緊の課題だろうと思っています。先ほど話しましたけれども、折尾から始まる鹿兒島本線の沿線という、これをどういうふうにもベルト地帯としてつなげるかという、非常に大きな課題だろうと。一昨年に引き続いて、今年は宗像がユネスコの世界遺産になりました。西の玄関口としての折尾というのは、意味が変わってくる可能性もありますので、そういう新たな視点の中で考えていくということも必要なのかなと、スペースワールドの跡地利用も含めながら聞いていました。

それでは、他の構成員の皆様方に、ご発言をお願いします。どうぞ。

(齊藤構成員)

私は、もう少し別の視点でお話をさせていただきます。冒頭に市長が、観光サービス産業、環境エネルギーという大きな2本の柱のお話をされていたことが印象的でした。その中で、観光サービス産業に関して、少し私のほうから気付いた点をお話ししたいと思いません。

私は、よくこの20のプロジェクトに集約されたなど。多分、もっともつとあつたはずではないかなと思うのですね。それを、勇気を持って20のプロジェクトに集約されたということは、まず一つ評価したいなというところです。

その中で、方向性Ⅲ「国内潜在需要に対応したサービス産業の振興」というところと、観光サービス産業というところがリンクしておりまして、この工程表で言いますと15ページあたりになるのではないかと思います。観光サービスと、非常に広いテーマになるのですが、ここに①、②、③と3つほどありまして、まず北九州といえば、関門地域の観光地というところで一つ、実際、観光客数も関門地区で400万人来ているということで、やはり北九州イコール関門、あるいは門司というあたりのブランドというのは、非常に定着してきているところではないかと思います。

その一方で、先ほども少しお話が出ましたし、私も少しお伝えしたのですが、街なか、小倉の都心部といいますか、そちらの観光地、にぎわいづくりというものを、もっともつとこれから努力していく余地があるのではないかと思います。やはり、行政視点で考えますと、民間とは違って、期待したいところが地域ストックを活かすと。地域にあるものをきちんと基盤整備するといいますか、そういうことに立てば、そこにいる人だったり、資源だったり、建物だったり、自然環境だったりというテーマが出てくるのですが、地域ストックを活かすということと言いますと、今、街なかに大きなオアシスの勝山公園があります。そして、この間ニュースに出ていました旧小倉ホテルの整備が、今後進むであろうということが期待されております。非常に、今まで街なかに建っていたあそこの建物が、街なかのオアシスになるのではないかと期待されております。そして一方で、駅北口にあります浅野潮風公園の海が見える素敵な空間の広場があります。

この小倉にある3つ緑地、公園というのを連携して進めていく、ちょうどタイミングにきたのではないかと。それも、小倉ホテルの開発が進めば、非常に間がぼかんと空いていましたけれども、そこがうまくつながって、先ほどの横串を指すというお話が出ましたけれども、まさに街なかの3つの連携ができれば、インバウンドの方も何か公園でくつろげる空間ができたり、もちろん地域市民もそうですが、日常観光というのがもっともつと広がっていくのではないかと期待します。3つの地区を有機的連携にしていくということなのですが、ベースを整備していただくのは行政にお願いできればと思うのですが、それを活かしていくのは民間の力だと思っています。

北九州でイノベーションが、あんなに全国区に広がりました。あれは、やはり民間の力がかなり根っこに……もちろん、行政の努力もあつたとは思いますが、やはり民間が自発的にやっていった建物の利用価値、アップということでの事業だと思います。あのリノベ

ーションがやれた北九州ですから、空間を民間の力で活かしていくというのは、これをうまく情報発信していけば、そういう力はあるのではないかと。そこは、私も含めてですが、いろいろまちづくりに取り組んでいるメンバーがいます。そういったメンバーたちの力を集積することで、この北九州にある地域ストックを民間の力で活かしていく。そこで、官と民が連携できていくというスタイルに、今からつくり上げられる時にきたのではないかと、非常に期待をしております。

実際、私も駅周辺を歩いておりますと、やはりインバウンドということで海外の方が増えたなと肌感覚で、とっても感じるのです。中国の方、韓国の方、台湾の方、一見見ると分からないのですが、何となく言葉を聞いたり、何となく着ているお洋服を見たり、持っている本を見たりすると、やはり韓国の方あたりが多いなと感じます。しかし、その方たちがどこに行ったらいいかなということで、今、団体バスなどで来ているかなと思うのですが、そういう方たちがいずれ、もう一回北九州に個人旅行で来ようと。先ほど原田構成員がおっしゃっていましたが、個人旅行で来たときに、やはりみんなと同じ、北九州の日本人と同じような、日常的な観光を楽しみたいという人数が増えてくると思うのです。

それで、駅北口に免税店がオープンしました。実際、大型観光バスが乗り付けて、お客さんも結構入っている様子は、私も見ておりますけれども、あれはあれで一つ有りだと思います。一方で、日常スタイルを体験する場といたしますか、そういったのが街なかに求められるとなれば、例えば、都市型マルシェだったりとか、そういったのがその広場を活かして行われているようなイメージが整っていくと、空間を活かしたソフトの部分がうまく出来上がっていくのではないかなと。東京などにも、今、都市型マルシェということで、地域の農産物だったり加工品だったり、毎月第何曜日にあそこに行けば、マーケットがあるよというようなものも定着しています。

そして、広域連携ということで、せっかく関門エリアで広域連携したり、北の九州マルシェということで、京築エリアだったり宗像の手前ですか、芦屋とかあいった所までの北の九州マルシェの地域連携が行われています。せっかくネットワークを持っていらっしゃるんで、そういったものを活かして、それを小倉の都心部に持ってきて、そういった日常のにぎわいできれば、もっともっと魅力的な北九州になるのではないかなと思っております。すみません。少し長くなりました。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。齊藤構成員からは、まず空間の利用といたしますか、空間的な横串のお話で、にぎわいといたしますか、観光客も含めて、観光都市、環境ということでの開発の部分に関するご意見でした。

その中で、インバウンドのお話が出ましたけれども、昨年、北九州市立大学を中心として、「アジア未来会議」という国際会議に20カ国くらいから研究者が来たのですけれど、その研究者に話を聞くと、2泊3日では北九州は回れない。もっと長く滞在したいと。今のお話になんかつながるかもしれないのですけれども、その受入れが北九州にあるかどうかというのは、非常に大きな課題だろうと思います。先ほど、原田構成員からもあったよう

に、個人的な旅行者、インバウンドを中心とした旅行者の場合、ニーズが随分、日本人の場合と違う部分がある。そう考えると、いろいろ広がる可能性があると思います。

それから、先ほどの空間的な横串というところで、思ったのですけれども、まさに、インバウンドの観光客の皆さん方がどこを歩くかというところで、私も別の審議会の中で、いわゆる文学館とか文化に関する会議に参加しています。例えば、文学の道というのが、北九州にはあります。そういうものとの連携とか、いろいろな可能性が出てくるかなと、お話を聞きながら思いました。

重要なことは、観光、環境といった部分に関して、この北九州が持っているポテンシャルといますか、核になる場所を中心としたそういう所を有機的に連携していくという、取り組みと受け入れというものを広げるということが必要だろうという、ご発言だったと思います。どうもありがとうございました。

だんだん時間が少なくなってきましたので、ぜひご発言をいただければと思いますけれども、他にいかがでしょうか。では、緒方アドバイザー、お願いします。

(緒方アドバイザー)

今日頂いた説明で、少しでもそこでプラスアルファ、参考になるようなことがあればという観点で4点ほど、私個人といますか、我が社で得た情報も踏まえながらお話ができればと思います。

1つ目はメリハリみたいところで、全体感の整理ということですが、私個人的には企業の分析でよく行われているSWOT分析というのがございます。皆さん、よくご存じかと思うのですが、これは結構、戦略を立てる入口のところ、頭の整理としてはいいのではないかと。SWOTというのは、主に企業で使いますけれども、強みと弱みと、あとチャンスと脅威。それぞれ、今、北九州市が置かれている状況で強みが何であるのか、弱みは何か、チャンスは何か、脅威は何かという整理を行って、成長戦略としては、強みを伸ばして、弱みをなるべく減殺して行って、チャンスをつかんで行って、脅威に対応していくというような方向感で戦略を練られるということが、割と入口の頭の整理においては有用ではないのかなと思っています。

ちなみに、実は意外に思われるかもしれないのですが、日本銀行は金融機関に貸出先の評価みたいなものを、適正かどうかというものをチェックしているのです。以前は、バランスシートとか損益計算書を見て、数字だけで企業を評価していたのです。今は、やはり成長性があるかどうかということで、各融資先のSWOT分析のようなことも含めて評価されたらどうでしょうかというようなお話に、少し傾いてきているというような状況でございます。

2点目は、ITの関係でお話があった点で若干情報提供をしますと、金融の関係でフィンテックというのが、最近はやりでございまして、うちも本部のほうにそういうのを調査している部署があるのですが、実は今、アジアで一番フィンテックが進んでいるのが中国ということです。中国は、キャッシュレスが進んでいまして、何が起きているかというと、何だという感じですが、スマホでいろいろな決済ができるような技術が進んでおります。私、何が言いたいかというと、10年前とか、もう少し前は技術的な制約で、

こういうことをやりたいんだけど、できないよねというようなことが、今はスマホのアプリを使うと簡単にできてしまうというような状況になってきています。

一方で、報道情報くらいしか、私も知りませんが、地域通貨なるものがどこかの所で試験的に行われているというような話もありますので、一つはITという関連においては、そういったフィンテックの動きもご参考にさせていただいたら、もしかしたらいいのかなと思います。

3点目はグローバル化ということで、英語は重要だというお話がございました。この点、私もまさしくそう思っています、2つございまして、やはり北九州の強い所というのは、新日鉄住金さんをはじめ、グローバル企業がたくさん所在していると。やはり、グローバルというところで力を入れていて、その中で英語というのはアジアでいうと、例えばシンガポールとか香港があそこまで栄えたというのは、やはり国民のほとんどの人が英語を話せる、分かるということが、海外の企業を誘致したという起爆剤になっていると思いますので、この点は重要なのかなと考えております。

最後、4点目ですけれども、もちろん、こちらの工程表の中にもかなり書き込まれているのですが、やはり重要なポイントとしては、まちづくりというところが、実は成長戦略の重要な部分を占めているのではないかなと、個人的には思っております。

いろいろと整理の仕方はあるかと思うのですが、どういう町を目指すかという、私個人的には、やはりそこに住んでいる人が住んでいることに誇りを持てるような、そういった町をつくっていくというのが重要かと思うのですが、これはなかなか、最初に言いましたけれども、言うは易しで実現は難しいところであって、方向感をしっかり持って、まちづくりをどうするかということも、これも幅広い意見を拾いながら対応を進めていくというのが重要なポイントなのかなというふうに、今日、皆さんのお話を聞いて感じたところでございます。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。4点ほどまとめていただきました。

まず、行政の得意とするSWOT分析ということで、4つのマトリックスでそれぞれを考えていくというのは、恐らくはすぐにできるのだろうと。非常に有能な、北九州市の行政の皆さん方にやっていただければと。

それから、籠田構成員が最初におっしゃったITと英語という、そういうところに関して、まさに今、ご説明があったようなフィンテックという一つの事例、これも具体的なお話が出ましたので、勉強する方向性としてはあるなど。

それから、グローバルに関しては企業、あるいはグローバリゼーションというのは基本的に一つの流れ……トランプが、少し違った方向性ですが。逆に必要になってくるような視点だと思えます。

それから、齊藤構成員からもありました、まちづくりということで、この地にとっての、まさに市長がずっと言っている「シビックプライド」ということに関係したまちづくり。どういうふうな潜在性があるかということでのまちづくりというのを、共感的、あるいは実感的、いろいろな形で、先ほど私が言った折尾地区というのもそうなのですね。

れども、いろいろなこれまでの歴史的な経緯の中で考えていくという、そういう点をご指摘いただきました。大変、ありがとうございます。

もう、そろそろ時間になりました。2点ほど、私からこの成長戦略の懇話会の中で考えたことをお話しします。まず、私は経済の専門家ではございません。専門家ではないものが発言するということでご理解、ご容赦いただければありがたいと思います。

1点目ですけれども、最初にご紹介しましたけれども、『未来の年表』という本を河合雅司さんが書いて、7月に出た本です。その中で、地方創生に関して10の処方箋を書いています。この内の多くはこのプロジェクトの中に書き入れられていると思っています。

例えば、匠の技を地域において活用すること。これはもう随分前から、実際に北九州市はやっている。むしろこちらの実績を著者に教えたほうが良いような、そういう取り組みも挙げてあります。

その中で1つ、面白いなと思ったのは「市民制度」、いわゆるセカンド市民制度という考え方です。法的にはいろいろ課題もありますが、その考え方はあるのかなと思いました。と申しますのも、夏休みにお盆で北九州に帰って来る。そういう時期には故郷に移動する。

確かに、人口という側面から考えますと、そこに住民票があるわけではないのですけれども、そういう方々が移動する。また、企業などで働いている方の生活の基盤として、いわゆる北九州を考えているという人に対しては、セカンド市民としての新しい考え方というのはあるのかなという気がしました。例えば、そういう方に対しては応援団になってもらう。今、どこの町でも名誉市民とかはあるわけですけれども、もう少し実体化した形で、「セカンド市民」を認定して、ここには何万人いるんだよと。そういう発想というのができるのかなということを思いました。

それからもう1つ、先ほどからものづくりの企業について、皆さん方から多くの意見を頂いています。もう一步、北九州市を進めるためには何が必要かなということ、考える必要があると思いました。そのためには、いわゆるストーリーを作って、ブランドを作ることだという気がしました。これも、経済素人の人間が言っているということで笑っていただければ結構ですけれども。例えば、北九州はエコタウンという新たな21世紀型の施設をつくりました。そこでは、廃棄処分するものを再利用しながら新たな製品を作る取り組みをやっています。これが1つのブランドです。

それをもう一步進めるためには、例えば、この新成長戦略の計画自体は平成31年までの5年間ですけれども、平成32年には東京オリンピックが開催されます。これはスポーツの祭典です。文化スポーツに浸透できるような、一つの企業というのとは考えたときに、浮かんだのは、ドイツのアディダスです。アディダスが北九州に来たら、どうだろうかと思いました。

例えば、シューズやウエアー、グッズなど、いろいろな形で裾野が非常に広い。先ほど原田構成員のほうからありましたが、鉄と自動車という非常に大きい企業の話がありました。少しソフトなところで、そういうものとして、例えばアディダスイン北九州でアディダスの製品を、環境という一つの流れの中で考える。それから、ここにある世界遺産やいろいろな北九州の魅力で呼ぶ。企業を誘致するというのは非常に難しい話ですけれども、ストーリーをどういうふうに創るか。相手にとってプラスにならなければ、ほとんど意味がな



いことですね。

ドイツは、歴史的背景から平和や環境に特化した国です。その意味では北九州における過去の歴史。ここがどういう地であったかといえば、8月9日、長崎の原爆投下から、市長が平和記念館をつくるという、そういう歴史まで踏まえた形で、トータルなストーリーの中でプライドある町なんだということで、アディダスを呼んで来る。「ここに来たら得するよ」というくらいの発想ができないかなと思います。企業誘致はいろいろな形でやって成果をあげていますが、新たな一つ目玉になる北九州ブランドみたいなものを考えていくことも、次の第一歩の新しい方向として必要という気がいたしました。これは、絵空事のような話になるのかもしれませんが、ぜひ広い視点から、いろいろな皆さん方の意見を元にしながら、この市の在り方、いわゆるサステイナブルな市の在り方を考えていくと、ありがたいと思います。

11時35分までということですが、皆さん方で、何かどうしてもこの1点だけという、あるいは市長・副市長が来られていますので、ぜひこの辺は聞いていただきたいということがあればお伺いして、終わりにしたいと思います。

(福田構成員)

すみません。長くなってしまいますけれども、先ほど1回、「平成32年以降」という言葉が出たのです。5年の戦略が入っているので、平成32年以降、この中に1つ欠けているキーワードで「学校」です。

先日、ある記事を読みまして、日本の大手企業の業者が、どんどん、どんどん東京に本社を移していくと。その中で、京都に本社がある会社だけは移さないというのです。なぜかというと、京都の人口の約10%が学生。東京と京都という町は学校がものすごく多いのです。学生というのは、アルバイトとかで、企業の戦力でもありながら潜在的な将来の社員でもあり、当然、納税者でもあるわけです。やはり、5年、10年、20年先を考えていくと人なのです。

北九州も魅力的な学校がいっぱいあるのですけれども、平成32年以降、これから10年、20年先を考えていくと、若手もそうですし、シニア世代もあらためて学校に入って、もう一度学ぶとかそういう点も含めて学校教育の充実、他の地域にないような充実。北九州に行けば、学び直せて、また新しい活力を持って仕事ができるぞというような魅力的な学校が幾つかできると、市がもっと活性化するのではないかと。

本当に厚かましいお願いですけれども、例えば、経営がどうもおかしくて、かつがつ生徒が集まるというような私立の学校があれば、法的にあまり難しくないと思いますので、北九州市立に変えてしまおうとか、どんどん魅力的な学校をつくって人が集まるような市になるとありがたいなど。

なんてことは、あくまで私見ですが思っておりますので、よろしければご検討ください。

(近藤座長)

どうもありがとうございました。大学人としては、少しコメント控えてということにしたいと思います。

それでは、一応、今日、懇話会でご意見いただいたものは、事務局でまとめて頂いて、また議事録という形で確認いただけたと思います。

私のほうで全体の議論をまとめなさい、総括をするようにといわれましたけれども、もうそれぞれ発言の時に、私なりに解釈したつもりですので、ここでは差し控えさせていただければと思います。

それでは、時間になりましたので、構成員の皆様方には本当にありがとうございました。事務局に、マイクをお返ししたいと思います。

## 事務局

ありがとうございました。また、本日は大変活発なご意見を頂きまして、ありがとうございました。本日、頂きました意見につきましては、市役所内でフィードバックして、戦略推進の参考にさせていただきたいと思っております。その際に、皆様には、個別にご相談させていただくこともあろうかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、年明けに予定しております次回の会議では、今回の皆様の意見を参考にテーマを設定させていただきまして、ご議論いただきたいと思います。

それでは、最後に北九州市長、北橋より閉会のご挨拶を申し上げます。

## (北橋市長)

今日は、どうもありがとうございました。たくさんのテーマ、さまざまなご提言を頂いておりまして、議事録を見るとかなり膨大な分量になると思います。大変、貴重な提言を頂いたと感謝申し上げたいと思います。

今日は、それぞれの局の幹部職員も一緒におりますので、今日頂いたご意見をよく精査させていただいて、取り入れられるものはしっかりと、今後前進させていきたいと思えます。その中で、ちょっと思い付いたことをいいですか。

優先順位というのは、いつも言われることで、どの審議会でも調査会でも総花的であるというのは必ず言われることであります。この市民生活を守っていて、できる限り手を差しのべたいという思いで、特に産業で頑張っている、雇用が生まれてくるというときには手を差し伸べたいという気持ちがあるものですから、それが1,000人のものであろうが、あるいは5人、10人のものであろうが、やはりチャレンジをして、可能性にかけているという企業・業種にはバックアップをさせていただきたいという思いが強いので、なかなか、そういった意味では表現的に、優先順位というのは明確につくれないところであります。

インバウンド、観光というのは日本全体にとって、2020年に向けてどれだけこの風に乗れるかというのは、地方創生にとっても非常に重要で、そして、都市間競争も激しくなると思っております。そういった意味では、紫川周辺をさらに彩るとか、関門海峡だとか、あるいは産業観光、エコツアーとか強みもあります。短時間の勝負になりますけれども、目いっぱい頑張って、さらに引き付ける魅力アップというのは、時間的に優先順位は高いのではないかなと思います。

その中で、今日は食品という提案がありましたが、実はハラルというのはかなりのマーケットだと思って、数年前から水面下でいろいろやっております。この卵が危ないという

話が今、けさ方も非常に話題になっていますが、日本の食の安全、魅力というのは抜群に評価が上がってきていると。我々香港からバイヤーが来るのを案内したり、食という面で、特に食品は6次産業ですから、相当可能性があると思って探ってきているのですが、今、途上にありまして、はっきりとその姿はまだ出せないのですが、食品については大きいと思います。こうした努力は、特に海外展開と表裏一体となっていますので、海外エコビジネスというのもやってきましたが、そこで得られた信頼関係を元に、ぜひ中小企業の海外展開のお手伝いをもっと一生懸命やらないといけないと思っております。

行政と民間との距離をどう考えるかというのは、耳が若干痛いところではありますが、真剣に承ったところでもあります。一つ思いあたるのは、東京ガールズコレクションの役員と話をしたときに、どのように発信しますかという質問をしたところ、ホームページでしようかと言ったら、もちろんホームページはありますけれども、ホームページは来られる方をお待ちするという受け身、待ちの姿勢だと。したがって、少しでもお客様に発信するために Facebook や Twitter というものを重視しているという、その言葉に、非常に自分も「ああ、そういうものかな」と。

実は、市役所もいろいろな努力をしているのですが、炎上したり、その対応も大変ですし、Facebook、Twitter というのを、全局がみんなやっているわけではないのですね。そういうところにも、行政と市民、民間との距離をさらに縮める工夫というのはどうできるか。特に、おすし屋さんとか藤園とかみても、SNS の世界であれだけ大きな力を発揮していますので、これも大事なご示唆を頂いたと思っております。

中小の生産性というのを見ると、フィンテックと i-Construction とか、そういうロボットの導入だとか、先端的なものを中小企業が取り入れるのを、もっとバックアップして、競争力で負けないというものを強くすることは非常に大事だと思っております。実は、悪戦苦闘しております。悪戦苦闘しているのですけれども、ここは非常に大事なご指摘だと思っております。

英語について、最近、うれしいニュースが教育でございました。今まで、ずっと教育委員会、私ども、全国平均の学力よりも上に出ようというか、そこに追い付こうということで、必死に10年以上頑張っているのですけれども、ひょんなことから英語で調査がありまして、そして、福岡県でナンバーワンだったと。福岡市よりもいいという。それは、英語教師の姿勢もそうなのですが、英語について北九州というのは、実力はかなりあるという評価が、今年になって出まして、みんなは意気軒昂でございます。非常に大事なご指摘だなと思いました。

スペースワールドの跡地利用は、今日は岩井構成員もいらっしゃっておりますが、一説に5年、6年という説もありまして、ここは非常に重要な、何とかインバウンドのお客様も含めて、市外に出ていったお客様を取り戻すくらいの気持ちでいいものをつくってほしいし、それはカルチャーとか、グルメだとかエンタメだとか、そういうものも含めて周辺との関係、あるいは連携を考えますと、時間がかかるということは、それだけロスが出ますので、ここは要請をさせていただいておりまして、できるだけ早く、そしてまた行政も、もしプランが出てまいりましたら、市全体の活性化に直結するように、最大限の勉強をして頑張らせていただきたいと思います。

大変、長くなりまして恐縮でございます。今後とも、今日頂いたご意見をしっかりと精査させていただいて、少しでも雇用が増えていきますように頑張らせていただきますので、引き続き、よろしくお願い申し上げたいと思います。ありがとうございました。

事務局

それでは、会議を終了させていただきます。皆様、ありがとうございました。